

ホタテガイ養殖管理情報

稚貝の大きさが平年よりも大きいいため、早めの分散作業を

1 海況

9月7日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は図1のとおりです。水温は23℃以下に低下しており、今後1ヶ月間の水温についても平年並みからやや低めの見込みです。詳しくは、陸奥湾海況情報や海ナビ@あomorい（下記URL、QRコード）をご覧ください。

2 稚貝の状況について

9月7日に久栗坂実験漁場と川内実験漁場の稚貝を調査しました。測定結果は表1のとおりです。

平均殻長は久栗坂実験漁場で24.8mm、川内実験漁場で20.2mmと、過去15年の平均値（それぞれ21.0mm、18.3mm）よりも大きいサイズとなっています。

へい死率は久栗坂実験漁場、川内実験漁場ともに0%と、過去15年の平均値（それぞれ7.0%、1.0%）よりも低い値となっています。

3 稚貝分散作業時の注意点

- 稚貝の大きさが平年よりも大きいため、分散が遅れると、稚貝の成長悪化や、異常貝増加によるへい死につながるので、作業は11月末までに終わらせるようにしましょう。
- また、1段当りの収容枚数が多いと同様に成長悪化やへい死につながるので、養殖方法に応じた適正な収容枚数（1段当り10～20枚）を心がけて作業してください。
- 潮流によるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、ネットにはオモリをつけましょう。また、潮流が速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、施設を浮かせずぎないようにしましょう。

4 新貝の養殖管理について

玉付け・籠換え・掃除は、中層の水温が20℃を下回り、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから開始するようにしてください。

ただし、水温が23℃以下に低下しているため、海底に籠や耳吊りが着底している場合は玉付けを行っても構いません。

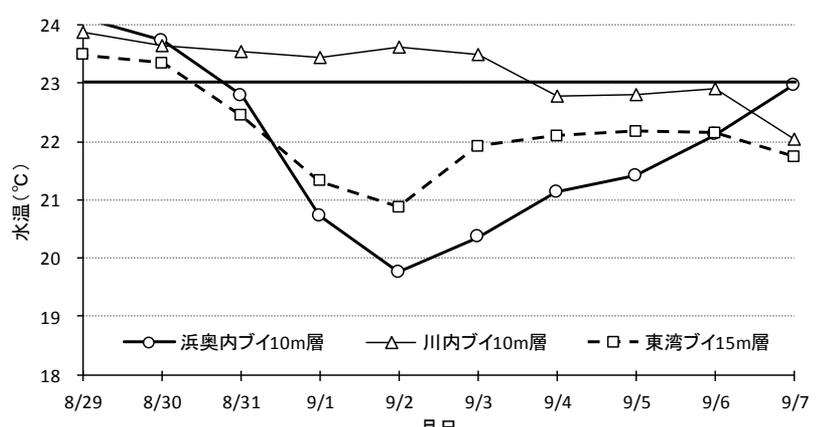
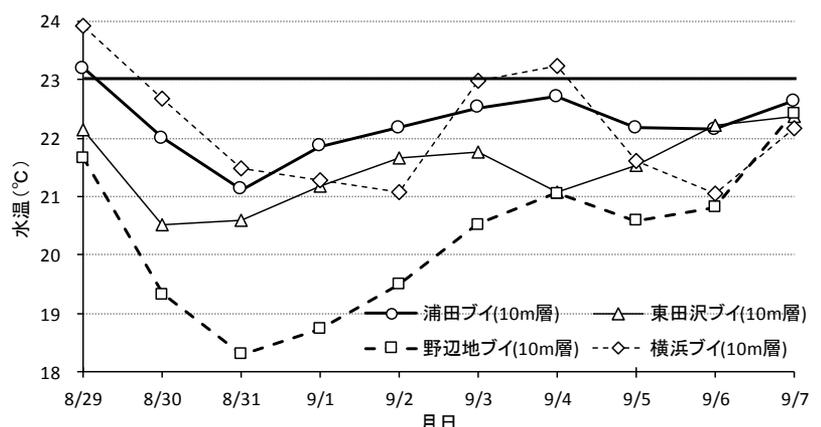
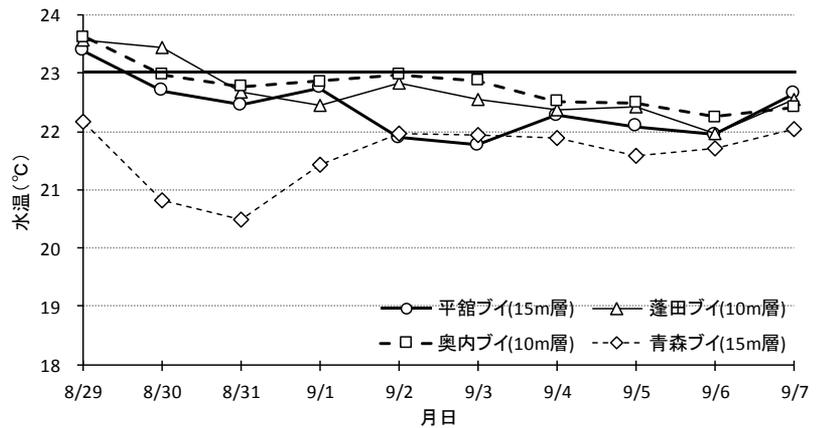


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

表1 現在の稚貝の状況

調査場所	久栗坂実験漁場			川内実験漁場
	9月7日			
調査月日	9月7日			9月7日
垂下水深(m)	36	16	16	26
稚貝採取時期	7月12日	7月12日	7月12日	7月21日
採苗時の篩の目合(分)	2	1.5	2	2
1段当りの収容枚数(枚)	54	179	122	95
死貝数(枚/段)	0	19	11	0
へい死率(%)	0.0	10.6	9.0	0.0
異常貝率(%)	0.0	2.0	2.0	7.4
平均殻長(mm)	24.8	21.8	23.2	20.2

